

デジタル田園都市国家構想交付金事業(地方創生推進タイプ・地方創生拠  
点整備タイプ・デジタル実装タイプ)に付随する  
重要業績評価指標(KPI)の評価シート

**デジタル田園都市国家構想交付金**  
**(地方創生推進タイプ・地方創生拠点整備タイプ・デジタル実装タイプ)**  
**【重要業績評価指標(KPI)】の評価詳細**

デジタル田園都市国家構想交付金実績評価シート【重要業績評価指標(KPI)】の記入内容は以下のとおりです。

		記入内容	
事業名		事業名を記入	
交付金タイプ名		交付金のタイプ名を記入	
連携自治体名		広域連携事業の場合は連携自治体名を記入	
事業の概要・目的		事業の概要・目的を記入	
交付金を充当する事業経費(実績額)		交付金を充当する事業経費を記入	
事業の概要		個別事業の概要を記入(ある場合のみ)	
R5年度歳入予算額(円)		令和5年度事業に係る歳入予算額を記入	
R5年度実績額(円)		令和5年度事業が終了し、確定した事業費の実績額を記入	
R5年度国費充当額(円)		令和5年度事業へ最終的に充当した国費(本交付金)の金額を記入	
事業始期		事業計画期間の開始時期を記入	
事業終期		事業計画期間の終了時期を記入	
KPI		事業ごとに設定したKPI(重要業績評価指標)を記入(複数ある場合はすべて)	
担当部課等		事業を所管する部課等を記入	
設定根拠		KPIの設定根拠(費用対効果を計測するのに適している理由等)を記入	
従前値		KPIについて、事業開始前の数値を記入	
単位		KPIの単位を記入	
基準年度		KPI設定の基準年度を記入(原則、事業開始年度の前年度)	
目標値	R2	該当する各年度の目標値を記入 ※デジタル実装タイプに係るKPIの値は累計値である。	
	R3		
	R4		
	R5		
	R6		
	R7		
	R8		
	合計(目標値)		目標値の合計(増加分の合計)を記入
	単位		KPIの単位を記入
	目標年度		KPI達成の最終目標年度を記入
実績値	R2	該当する各年度の実績値を記入 ※未確定の場合は、時点がわかるように暫定版を記入 ※デジタル実装タイプに係るKPIの値は累計値である。	
	R3		
	R4		
	R5		
	R6		
	R7		
	R8		
	合計		実績値の合計(増加分の合計)を記入
	単位		KPIの単位を記入
	目標値の達成率		当該年度の目標値に対する実績値の達成率を記入

KPI進捗評価	<p>以下の基準を参考に、各事業のKPI達成状況に応じて評点を算出し、各KPIの評点平均を基に評価を決定 ※当該年度の目標値が「0」のKPIは「未評価」とする。</p> <p>○目標値に対する達成度合いに応じた評点(小数点第3位を四捨五入)          目標値を達成・・・10点          目標値の70%以上・・・5点          目標値の50%以上・・・3点          目標値の50%未満・・・0点</p> <p>○各KPIの評点平均(小数点第2位を四捨五入)に基づく評価          A・・・10点          B・・・7点以上10点未満          C・・・5点以上7点未満          D・・・3点以上5点未満          E・・・3点未満</p>																															
R5年度実施内容 (特記事項)	<p>令和5年度の具体的な実施内容を記入し、その内、特記事項等があれば、併せて記入。</p> <p>○特記事項          ・KPIをはじめ事業実施に大きく影響を及ぼした要因・背景等          ・KPIの実績値では確認できない、事業の取組や進捗等のうち特に総合評価に反映すべき成果等          ※総合評価にプラスの影響を与える内容、マイナスの影響を与える内容、影響を与えない内容を複数記載可能</p>																															
評価	<p>R5年度実施内容(特記事項)の内容を総合評価へどのように反映させるか、担当部課等で判断し、以下の3項目から選択</p> <p>・ア:特記事項の記載を考慮し、総合評価を1段階引き上げ          ・イ:特記事項の記載を考慮し、総合評価は据え置く          ・ウ:特記事項の記載を考慮し、総合評価を1段階引き下げ          ※特記事項に複数の内容が記載されている場合、総合的に考慮し判断する</p>																															
総合評価	<p>「KPIの進捗評価」を基に、「特記事項」の内容を加味して、事業の総合評価を決定(以下の表を参照)</p> <div style="text-align: center;"> <p>← 高 評価 低</p> <p>S A B C D E F</p> <table border="1" style="margin-left: auto; margin-right: auto;"> <thead> <tr> <th colspan="2" rowspan="2"></th> <th colspan="5">KPIの進捗評価</th> </tr> <tr> <th>A</th> <th>B</th> <th>C</th> <th>D</th> <th>E</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <th rowspan="3">特 記 事 項</th> <th>ア</th> <td>S</td> <td>A</td> <td>B</td> <td>C</td> <td>D</td> </tr> <tr> <th>イ</th> <td>A</td> <td>B</td> <td>C</td> <td>D</td> <td>E</td> </tr> <tr> <th>ウ</th> <td>B</td> <td>C</td> <td>D</td> <td>E</td> <td>F</td> </tr> </tbody> </table> </div>			KPIの進捗評価					A	B	C	D	E	特 記 事 項	ア	S	A	B	C	D	イ	A	B	C	D	E	ウ	B	C	D	E	F
				KPIの進捗評価																												
		A	B	C	D	E																										
特 記 事 項	ア	S	A	B	C	D																										
	イ	A	B	C	D	E																										
	ウ	B	C	D	E	F																										
課題	事業について、現時点での課題等を具体的に記入																															
今後の取組(改善目標)	<p>課題を踏まえ、令和6年度以降の取組について記入          ※交付金事業としての事業期間が終了する場合も、今後の事業の展開等について記入</p>																															

令和5年度に実施した交付金事業における実績評価シート(①)

事業名	自転車利用推進による三密を回避したつくば市内及び近隣自治体間との回遊性向上促進事業					交付金タイプ	地方創生推進タイプ				
						連携自治体	つくば市単独				
事業の概要・目的	<p>1. シェアサイクル事業:つくばエクスプレスつくば駅及び研究学園駅を中心とした約2km圏域内に20箇所程度のサイクルポートと50台程度の自転車を設置し、スマホアプリで利用可能なシステムを備えたシェアサイクル事業を展開する。特に、バス停の半径500m圏外(≒バスサービスの空白地域)に重点的に配置し、既存の公共交通網を補完する。また、つくば駅周辺の中心市街地における回遊性を向上し、活性化に寄与する。</p> <p>2. レンタサイクル事業:レンタサイクルを、つくば駅(30台)と、筑波山麓バスターミナル「筑波山口」(18台)に設置し、来訪者へ移動手段として提供し、地域活性化を実現する。</p> <p>3. 茨城県広域レンタサイクル事業:茨城県、沿線自治体、沿線民間企業等で構成する「つくば霞ヶ浦りんりんロード利活用推進協議会」では、乗り捨て可能な広域レンタサイクル事業(令和2年度:つくば市を含む9市11施設、113台)を平成29年度から開始している。つくば市では、この広域レンタサイクルをベースとして、広域サイクルツーリズム事業を立ち上げていくことで周辺市街地の活性化を推進する。</p> <p>4. HPI「つくば市サイクリングガイド」の運営:つくば市のサイクリング情報(コース、休憩施設、飲食店情報等)、自転車整備や修理ができるポイント(自転車店、いばらきサイクルサポートステーション等)や自転車に関するトピック等を総合的に発信することで、自転車利用を促進する。</p> <p>5. 弱虫ペダルサイクリングチームとの連携に基づく事業:令和3年に連携協定を締結した「弱虫ペダルサイクリングチーム」の意匠活用したバスラッピングをつくば市コミュニティバス「つくバス」に施し、自転車利用の推進と安全利用の啓発活動を行う。</p>										
交付金を充当する事業経費(実績額)	<p>(1)シェアサイクル事業 5,257,122円                  (2)レンタサイクル事業 1,660,362円                  (3)茨城県広域レンタサイクル事業 830,000円</p>										
R5年度歳入予算額	4,846,000円		R5年度実績額		7,747,484円		(実績額のうち、国費充当額)		3,873,742円		
事業始期	令和3年4月				事業終期		令和6年3月				
指標①	KPI		自転車利用者数					指標担当部課等		都市計画部サイクルコミュニティ推進室	
	設定根拠		この指標を用いることで、移動手段の選択肢の多様化によるつくば市民の自転車利用増加と、つくば霞ヶ浦りんりんロード等観光目的でのつくば市及びその近隣自治体への来訪者数の増加を、総合的かつ直接的に測ることができる。								
	目標値【年度増加分】		従前値	基準年度	R2	R3	R4	R5	R6	合計	目標年度
			1,259,000 人	令和2年度	-	41,000	45,000	46,000	-	132,000 人	令和5年度
	実績値【年度増加分】				-	117,949	184,040	91,202	-	393,191 人	評点
目標値の達成率【年度増加分】				-	287.7%	409.0%	198.3%	-	297.9%		

指標②	KPI	シェアサイクル事業稼働率					指標担当部課等		都市計画部サイクルコミュニティ推進室	
	設定根拠	シェアサイクルの稼働率を算出することで、市内の回遊性向上の程度が具体的に把握できる。また、稼働率は収益とも連動するため将来的な自走の可能性を測ることができる。								
	目標値【年度増加分】	従前値	基準年度	R2	R3	R4	R5	R6	合計	目標年度
		0 %	令和2年度	-	40	14	20	-	74.0 %	令和5年度
	実績値【年度増加分】			-	62.38	54.14	-0.93	-	115.6 %	評点
目標値の達成率【年度増加分】			-	156.0%	386.7%	-4.7%	-	156.2%		
指標③	KPI	レンタサイクル事業稼働率					指標担当部課等		都市計画部サイクルコミュニティ推進室	
	設定根拠	レンタサイクルの稼働率を算出することで、市内の回遊性向上の程度を把握することができるとともに、シェアサイクル事業との比較を行うことで、レンタサイクル事業のターゲット絞り込みや高付加価値化等への転換を行うことができる。								
	目標値【年度増加分】	従前値	基準年度	R2	R3	R4	R5	R6	合計	目標年度
		23 %	令和2年度	-	4.00	4.00	4.00	-	12.0 %	令和5年度
	実績値【年度増加分】			-	0.43	-0.30	-2.26	-	-2.13 %	評点
目標値の達成率【年度増加分】			-	10.8%	-7.5%	-56.5%	-	-17.8%		
指標④	KPI	つくば市公式HP「ツクバサイクル」関連ページへのアクセス数					指標担当部課等		都市計画部サイクルコミュニティ推進室	
	設定根拠	「サイクリング」をフックにしたつくば市内の散策及びつくば市への来訪の魅力度が向上しているかどうかを測ることができる。HP「つくば市サイクリングガイド」はサーバー運営会社の事業終了に伴いR5.3月をもって閉鎖となるため、つくば市公式HPリニューアルに合わせて「ツクバサイクル」関連ページを公開し当該ページへのアクセス数をもって令和5年度のKPIとする。								
	目標値【年度増加分】	従前値	基準年度	R2	R3	R4	R5	R6	合計	目標年度
		102,000 回	令和2年度	-	5,000	7,000	10,000	-	22,000 回	令和5年度
	実績値【年度増加分】			-	-792	-18,886	-34,196	-	-53,874 回	評点
目標値の達成率【年度増加分】			-	-15.8%	-269.8%	-342.0%	-	-244.9%		

評価の分析	評点の平均値	R5年度実施内容(特記事項)		特記事項評価	総合評価
	2.5	・シェアサイクル事業について、自転車の故障があり稼働率は昨年度からやや下がったものの、サイクルポートを1か所増設し、利用実績が昨年度より約2,000件増えたことから自転車利用者数における目標値の達成度は100%を超えた。		ア: 引上げ	D
	KPI進捗評価				
	E				
	課題		今後の取組(改善目標)		
・筑波山口市レンタサイクル事業の利用実績が減少傾向にある。 ・リニューアル後のホームページのアクセス数が過年度を下回っている。		・筑波山口周辺のサイクリングモデルコースの周知等を行う。 ・ホームページに自転車イベントの情報を掲載するなど、コンテンツを充実させていく。			

【参考】各KPIの累計値

指標①	KPI	自転車利用者数						
	従前値	1,259,000 人	基準年度	令和2年度	目標年度	令和5年度	指標担当部課等	都市計画部サイクルコミュニティ推進室
	年度	R2	R3	R4	R5	R6	合計	
	目標値【累計】	-	1,300,000	1,345,000	1,391,000	-	1,391,000	人
	実績値【累計】	-	1,376,949	1,560,989	1,652,191	-	1,652,191	人
指標②	KPI	シェアサイクル事業稼働率						
	従前値	0 %	基準年度	令和2年度	目標年度	令和5年度	指標担当部課等	都市計画部サイクルコミュニティ推進室
	年度	R2	R3	R4	R5	R6	合計	
	目標値【累計】	-	40.00	54.00	74.00	-	74.00	%
	実績値【累計】	-	62.38	116.52	115.59	-	115.59	%
指標③	KPI	レンタサイクル事業稼働率						
	従前値	23 %	基準年度	令和2年度	目標年度	令和5年度	指標担当部課等	都市計画部サイクルコミュニティ推進室
	年度	R2	R3	R4	R5	R6	合計	
	目標値【累計】	-	27	31.00	35.00	-	35.00	%
	実績値【累計】	-	23.43	23.13	20.87	-	20.87	%
指標④	KPI	つくば市公式HP「つくばサイクル」関連ページへのアクセス数						
	従前値	102,000 回	基準年度	令和2年度	目標年度	令和5年度	指標担当部課等	都市計画部サイクルコミュニティ推進室
	年度	R2	R3	R4	R5	R6	合計	
	目標値【累計】	-	107,000	114,000	124,000	-	124,000	回
	実績値【累計】	-	101,208	82,322	48,126	-	48,126	回

令和5年度に実施した交付金事業における実績評価シート(②)

事業名	持続可能な地域づくりに向けた地域資源マネタイズプロジェクト					交付金タイプ	地方創生推進タイプ					
						連携自治体	つくば市単独					
事業の概要・目的	<p>1. ネットワーク組成: 周辺市街地において、意欲ある者が自らの能力を活かし、地域経済に貢献・チャレンジできる環境を整備するために、周辺市街地に関わる様々なプレイヤーが共通の目的・意識を持ち、「2. チャレンジエリア形成」に向けた業務を実施できるように、リソースを持ち寄る「R8ネットワーク」を組成する。</p> <p>2. チャレンジエリア形成: 8つの周辺市街地から一部地域を選定の上、その中心部にチャレンジエリアを設定し、個性的な新規事業者の誘致、チャレンジショップ、空き地を活用したマーケット、キッチンカーなどの多様な出店形態を用意し、既存店舗との相乗効果や地域住民との接点を提供するなど、地域経済に参画しやすい環境を整備していく。</p> <p>3. 稼げる地域づくりの加速化: 地域活性化協議会やコンペ採択者の「稼ぐ力」への意識改革のために、資金調達のノウハウや事業計画策定のためのセミナー・勉強会の開催、個別具体的な相談に対応する伴走型支援を行っていく。また、活性化協議会設立までのプロセスをブラッシュアップし、周辺市街地近隣地域のコミュニティへの波及を図る。</p> <p>4. 多様な人材の参画: 活性化協議会の持続化のためには、若年層等(学生、子育て世代や女性)といった多様な人材の参画が不可欠であり、それら次世代を担う人材が協議会活動に参加する契機となる「(仮称)地域人材発掘コンテスト」を開催し、受賞者と活性化協議会との継続的な関係性の構築を図る。</p>											
交付金を充当する事業経費(実績額)	<p>(1) チャレンジエリア形成事業 7,449,115円                  (2) 稼げる地域づくりの加速化事業 4,341,643円                  (3) 地域づくりへの多様な人材参画促進事業 6,953,242円</p>											
R5年度歳入予算額	9,394,000円		R5年度実績額		18,744,000円		(実績額のうち、国費充当額)		9,372,000円			
事業始期	令和3年4月				事業終期		令和8年3月					
指標①	KPI					ネットワーク組織に関連した新規の事業収入					指標担当部課等	都市計画部周辺市街地振興課
	設定根拠	ネットワーク組織を組成し、支援を行った結果として発生するものである。定量的・客観的に分析でき、意欲ある者に対しての目標値としても適している。また、費用対効果を確認する点においても、投資(費用)に対しての成果(事業収入)を明確にすることができる。										
	目標値【年度増加分】	従前値	基準年度	R3	R4	R5	R6	R7	合計	目標年度		
		0	千円	令和2年度	1,000	4,000	6,000	6,000	6,000	23,000	千円	令和5年度
		実績値		1,360	3,955	4,425	0	0	9,740	千円	評点	5
	目標値の達成率		136.0%	98.9%	73.8%	0.0%	0.0%	42.3%				



指標②	KPI	チャレンジショップ入居者及び対象エリアでの開業件数						指標担当部課等	都市計画部周辺市街地振興課	
	設定根拠	本事業の根幹となるネットワーク組織では、チャレンジショップのソフト面での環境を整備するなど、意欲ある者の支援を行っていくため、実効的な支援を行えたかどうかの定量的な指標として適している。								
	目標値【年度増加分】	従前値	基準年度	R3	R4	R5	R6	R7	合計	目標年度
		0 件	令和2年度	0	2	2	2	2	8 件	令和5年度
	実績値			0	3	7	0	0	10 件	評点
目標値の達成率			0.0%	150.0%	350.0%	0.0%	0.0%	125.0%		
指標③	KPI	専門家による自走化の支援件数						指標担当部課等	都市計画部周辺市街地振興課	
	設定根拠	ネットワーク組織による支援活動の効果を客観的に捉える指標として適している。								
	目標値【年度増加分】	従前値	基準年度	R3	R4	R5	R6	R7	合計	目標年度
		0 件	令和2年度	4	2	2	2	2	12 件	令和5年度
	実績値			3	2	3	0	0	8 件	評点
目標値の達成率			75.0%	100.0%	150.0%	0.0%	0.0%	66.7%		
指標④	KPI	コンテストの開催等を通じた地域づくりへの新たな人材の参画者数						指標担当部課等	都市計画部周辺市街地振興課	
	設定根拠	多様な人材の参画によって組織の新陳代謝を促し、持続可能な活動を行っていく体制を整えていく必要があり、組織が新しい活力を取り入れながら活動できているかという指標として適している。								
	目標値【年度増加分】	従前値	基準年度	R3	R4	R5	R6	R7	合計	目標年度
		0 人	令和2年度	0	6	2	10	10	28 人	令和5年度
	実績値			0	47	38	0	0	85 人	評点
目標値の達成率			0.0%	783.3%	1900.0%	0.0%	0.0%	303.6%		

評価の分析	評点の平均値	R5年度実施内容(特記事項)	特記事項評価	総合評価
	8.8	<ul style="list-style-type: none"> <li>ネットワーク組織に関連した新規の事業収入については、各活性化協議会の自主事業(市民農園、マルシェの出店料、フリーペーパーの広告収入等)、新たに一つ追加して整備したチャレンジショップへの出店及びアイデアソンで実施した事業等の新たな収入を得るスキームを構築することができたが、想定より収入額が低い事業もあり、目標には及ばなかった。</li> <li>チャレンジショップ入居者及び対象エリアでの開業件数については、チャレンジショップを新たに一つ追加して整備を行うほか、内覧会の実施やチラシの配布等により、目標を超える7件の開業を達成した。</li> </ul>	イ:据置き	B
	KPI進捗評価	<ul style="list-style-type: none"> <li>専門家による自走化の支援件数については、各活性化協議会から参加者を募り、専門家と課題点について協議・情報共有を行う機会や、有識者ととも先進事例を視察する機会等を3回設け、各協議会の課題解決を支援した。</li> </ul>		
	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>コンテストの開催等を通じた地域づくりへの新たな人材の参画者数については、昨年度に引き続き多くの人材が地域づくり活動に参画してもらうため、応募者同士で「イベントづくり」「商品開発」「誘客促進」の各テーマごとにチームを結成し、アイデアの実践に挑戦するシン・アイデアソンを実施し、目標値を大幅に上回る実績となった。</li> </ul>		
課題	今後の取組(改善目標)			
<p>R8シン・アイデアソンの開催やチャレンジショップの出店により、周辺市街地での地域づくりに多様な人材が参画し、新しい様々な事業を実証することで、周辺市街地の活性化につながった。一方で、地域住民には日常生活の中で地域の変化を感じてもらい、地域への来訪者には他地域との差異を感じてもらい「日常の地域づくり」を目指すため、中心市街地での周知活動や、これまで実施してきた事業の持続化、各活性化協議会と新たに参画した人材の関係構築等を図っていく必要がある。</p> <p>※「アイデアソン」とは一般的にアイデア(idea)とマラソン(marathon)を掛け合わせた造語であり、一定の期間内で特定のテーマについてチームごとにアイデアを出し合い、共同作業で問題解決を図る催しとされている。</p>	<p>各地区活性化協議会が設立してから5年が経過したことを受け、国や地方公共団体・研究機関等が公開しているデータや、アンケート調査等を活用した各周辺市街地における分析レポートを作成・活用することで、「日常の地域づくり」につながる「地域ビジョン」を策定する。また、活動人材の定着とさらなる掘り起しとともに、協議会活動における人材や内容の固定・遞減化等の課題に対処するため、アイデアソン参加者をはじめとした多様な人材による、地域づくり活動を支援する組織または制度を構築する。</p>			

【参考】各KPIの累計値

指標 ①	KPI	ネットワーク組織に関連した新規の事業収入									
	従前値	0	千円	基準年度	令和2年度	目標年度	令和5年度	指標担当部課等	都市計画部周辺市街地振興課		
	年度	R3		R4		R5		R6	R7	合計	
	目標値【累計】	1,000		5,000		11,000		17,000	23,000	17,000	千円
	実績値【累計】	1,360		5,315		9,740		-	-	9,740	千円
指標 ②	KPI	チャレンジショップ入居者及び対象エリアでの開業件数									
	従前値	0	件	基準年度	令和2年度	目標年度	令和5年度	指標担当部課等	都市計画部周辺市街地振興課		
	年度	R3		R4		R5		R6	R7	合計	
	目標値【累計】	0		2		4		6	8	8	件
	実績値【累計】	0		3		10		-	-	10	件
指標 ③	KPI	専門家による自走化の支援件数									
	従前値	0	件	基準年度	令和2年度	目標年度	令和5年度	指標担当部課等	都市計画部周辺市街地振興課		
	年度	R3		R4		R5		R6	R7	合計	
	目標値【累計】	4		6		8		10	12	12	件
	実績値【累計】	3		5		8		-	-	8	件
指標 ④	KPI	コンテストの開催等を通じた地域づくりへの新たな人材の参画者数									
	従前値	0	人	基準年度	令和2年度	目標年度	令和5年度	指標担当部課等	都市計画部周辺市街地振興課		
	年度	R3		R4		R5		R6	R7	合計	
	目標値【累計】	0		6		8		18	28	28	人
	実績値【累計】	0		47		85		-	-	85	人

令和5年度に実施した交付金事業における実績評価シート(③)

事業名	市民中心のSociety5.0社会推進事業						交付金タイプ	地方創生推進タイプ			
							連携自治体	つくば市単独			
事業の概要・目的	市民中心のSociety5.0社会に向け、科学分野のヒト(研究者)・コト(研究成果)・モノ(研究機関)の集積と、スタートアップが活発であるという本市の強みをいかし、あらゆる未来技術の社会実装を目指す。これを通じて地域課題の解決を図るイノベーション・エコシステムを構築し、新産業・サービスが次々と生まれるまちを実現する。 1. 科学技術・イノベーション振興指針の策定: 本指針に市民意見を反映するため、開発事業者と本市が共同で昨年度まで実証実験を重ねてきた未来技術「インターネット投票システム」を、意見収集ツールとしての応用性の検証を兼ねて活用する。 2. 地域課題解決型未来技術実証実験支援: 市内大学・研究機関を含む全国から地域課題の解決に繋がる未来技術を公募し、優れた提案を採択。課題解決の可能性を検証するために、実証実験の費用負担、公共施設をはじめとする実証フィールドの提供、市民モニター確保その他の各種支援を行う。 3. 未来技術の社会実装に向けた市場・市民向けニーズ調査: 市域で実証した未来技術を市民や市内事業所に試してもらうホームユーステストにより、その市場性を評価するとともに、未来技術の質の改善・向上を図る。 4. 研究成果の商用化支援のための公共調達モデル構築: 公共調達により行政が未来技術の最初の「買い手」となり、地域への導入事例を作ること、市場化を加速させ、販路拡大を促すことが有効であることから、市域で実証した未来技術を素材に公共調達モデル構築のケーススタディを実施する。 5 データ利活用支援: Soceity5.0社会の実現に必要なデータ利活用を進めるため、課題解決の可能性を検証した未来技術事業者によるデータプラットフォームの活用を支援する。										
交付金を充当する事業経費(実績額)	(1)地域課題解決型未来技術実証実験支援 4,676,944円 (2)市場や市民ニーズ調査支援 893,806円 (3)研究成果の商用化支援のための公共調達モデル構築 0円 (4)データ利活用支援 0円										
R5年度歳入予算額	6,433,000円	R5年度実績額		5,570,750円	(実績額のうち、国費充当額)		2,785,375円				
事業始期	令和3年4月			事業終期	令和8年3月						
指標①	KPI	地域課題解決型未来技術実証実験の支援により社会実装(実用化)に至った件数						指標担当部課等	政策イノベーション部科学技術戦略課		
	設定根拠	本事業によって創出された未来技術の社会実装件数というアウトカムを把握するものであり、最先端の製品・サービスが生活にいかされた実績数を定量化したものである。また、本事業の成果として、各要素事業の実施により現れた直接の成果である。実証後すぐに社会実装されるものは少なく、実験における検証結果等の成果をもとにした、改良等の期間を必要とする場合が大いに想定されるため、複数年にわたって計測する必要がある。									
	目標値【年度増加分】	従前値	基準年度	R3	R4	R5	R6	R7	合計	目標年度	
		0	令和2年度	0	2	2	2	2	8	令和5年度	
		実績値		0	2	3	0	0	5	件	評点
	目標値の達成率		0.0%	100.0%	150.0%	0.0%	0.0%	62.5%			
指標②	KPI	新規創業数						指標担当部課等	政策イノベーション部科学技術戦略課		
	設定根拠	新規創業数は、本事業による研究成果等の社会実装の推進の成果として直接的に示す指標であるとともに、定期的に集計される値であるため。									
	目標値【年度増加分】	従前値	基準年度	R3	R4	R5	R6	R7	合計	目標年度	
		33	令和2年度	16	17	18	18	18	87	令和5年度	
		実績値		10	10	17	0	0	37	件	評点
	目標値の達成率		62.5%	58.8%	94.4%	0.0%	0.0%	42.5%			

評価の分析	評点の平均値	R5年度実施内容(特記事項)	特記事項評価	総合評価
	7.5	<ul style="list-style-type: none"> <li>全国各地からの提案21件のうち、超断熱材であるTIISA®の社会実装のため等、5件の実証実験を採択及び支援した。</li> <li>実証実験期間が短期的になってしまう課題の解消を図りつつ、個人情報を取扱うサービスにおいては個人情報の取扱い及びセキュリティ対策についての取り決めに厳密化する等、案件に応じた事業設計を見直し、セキュリティ対策を徹底した実証実験を行うことができた。</li> <li>令和4年度採択案件のフォローアップ調査を実施(5社中4社からアンケート回答)。メリット面として、実証実験の実績から技術向上につながった、価値の見極めに繋がったとの意見、また、改善点として、事業期間の延長及びトライアル後の継続的な接点の構築等のトライアルの運用に関する意見、社会実装に向けた支援についての意見を得ることができた。</li> <li>新規創業においては、社会実装トライアルのほか、起業・経営に関する専門的な情報提供・相談対応や意欲醸成のためのイベント・セミナーの実施、コワーキングスペースの提供、エコシステム構築等の支援を行った。</li> </ul>	イ:据置き	B
	KPI進捗評価			
	B			
	課題	今後の取組(改善目標)		
	<ul style="list-style-type: none"> <li>令和5年度採択案件については、各関連部署の課題に結び付くトライアルとなっている案件もあり、連携の強化につながっている成果はあるが、実証実験事業の接点から実証実験事業及び開発内容を認知したというところもあるため、さらなる認知度向上から関係部署との連携強化を行う必要がある。</li> <li>庁内関係部署との連携を強化し、実証実験事業に対する庁内での認知度を向上させ、実証実験の成果を市の課題解決に繋げる必要がある。</li> <li>フォローアップ調査の結果、事業期間の延長、トライアル後の継続的な市場との接点の構築支援及び人材マッチング支援等の社会実装に向けた支援といった、社会実装化に向けた伴走支援等、次年度の事業設計の在り方について検討を行う必要がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>引き続き、庁内関係部署との連携を強化し、各部署の施策における地域課題に対して、実証実験の有益性について協議する機会を持ち、連携の下で実施していく。</li> <li>引き続き、過年度案件のフォローアップ調査を実施し、社会実装化への課題について把握する。また、スマートシティ推進に関連する案件について、先進性や革新性を有する内容であるか、また、各関連法の動向を考慮しつつ、社会実装化に向けた伴走支援について、関連部署との連携により社会実装化に向けて取り組む。</li> </ul>		

【参考】各KPIの累計値

指標①	KPI	地域課題解決型未来技術実証実験の支援により社会実装(実用化)に至った件数								
	従前値	0	人	基準年度	令和2年度	目標年度	令和5年度	指標担当部課等	政策イノベーション部科学技術戦略課	
	年度	R3		R4		R5		R6	R7	合計
	目標値【累計】	0		2		2		4	6	6
実績値【累計】	0		0		2		-	-	2	人

  

指標②	KPI	新規創業数								
	従前値	0	件	基準年度	令和2年度	目標年度	令和5年度	指標担当部課等	政策イノベーション部科学技術戦略課	
	年度	R3		R4		R5		R6	R7	合計
	目標値【累計】	49		66		84		102	120	120
実績値【累計】	43		53		70		-	-	70	件

令和5年度に実施した交付金事業における実績評価シート(④)

事業名	移動の自由と安心安全で自立した生活を支えるSociety 5.0推進事業			交付金タイプ	地方創生推進タイプ
				連携自治体	つくば市単独
事業の概要・目的	<p>①デジタルデバイド解消調査事業 小田地区及び宝陽台地区の高齢者等に対するスマートフォン等の機器の貸与、スマホアドバイザーによる使用方法の指導等を行い、スマートフォン等の機器の使用可能者を増加させるとともに、特に効果的なデバイスの種類、対象となる年代、地域特性の情報を収集する。</p> <p>②つくば市ポータルアプリ開発・改修 行政情報等の配信や行政サービス、先端的サービスを集約し、そこから申請や利用をワンストップでアクセス可能とするインターフェースとしてつくば市ポータルアプリを整備する。</p> <p>③パーソナルモビリティシェアリング 自動走行を有するパーソナルモビリティを地区内シェアリングサービスとして導入し、自宅からバス停までの「ラストワンマイル」の移動の利便性を向上させる。</p> <p>④移動スーパー等ロケーションシステム 買い物における負担が大きい郊外において、移動スーパーの現在地、到着時間等の情報をスマートフォンで確認可能にし、買い物をスムーズに行うことができるようにする。また、医療機関、薬局、移動スーパーの連携により、遠隔診療後に処方薬を移動スーパーで受け取ることができるようにし、利便性を向上させる。</p> <p>⑤荷物配送ロボット等による買い物の利便性向上 自動配送ロボットを活用し、希望のタイミングで荷物を受け取ることができるようにする。また、自動追従型荷物搬送ロボットの活用により、荷物を持つことなく自宅まで帰ることができる環境を整備する。</p> <p>⑥分身ロボットを活用した障害者雇用の促進 一部の重度障害者は、移動が困難であることから、就労意欲はあるが週数時間しか勤務できないなど、社会参画の機会を得にくいいため、アバターロボットを通して、自宅から接客や案内業務等を実施できる環境を整え、移動が困難な障害者も就労することで社会参画ができるようにし、インクルーシブな社会の構築を目指す。</p>				
交付金を充当する事業経費(実績額)	<p>(1)デジタルデバイド解消調査事業 24,107,358円                  (2)つくば市ポータルアプリ開発・改修 18,420,600円                  (3)パーソナルモビリティシェアリング 34,184,802円                  (4)移動スーパー等ロケーションシステム 1,035,298円</p>				
R5年度歳入予算額	62,425,000円	R5年度実績額	86,758,983円	(実績額のうち、国費充当額)	43,379,491円
事業始期	令和4年4月		事業終期	令和9年3月	

指標①	KPI	移動スーパー 一か所あたりの月ごと平均利用者数										指標担当部課等		政策イノベーション部科学技術戦略課	
	設定根拠	本指標を測定することにより、本市の問題である都市と郊外の二極化が是正されたことを把握することができる。なお、本指標は、事業の進捗や展開状況(アプリの普及、デジタルデバイドの解消等の状況)によって逐次変移していくものであるため、複数年にわたって測定する必要がある。													
	目標値【年度増加分】	従前値	基準年度	R4	R5	R6	R7	R8	合計		目標年度				
		26.2 人/月	令和3年度	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	5.0	人/月	令和8年度			
		実績値		2.0	-8.3	0.0	0.0	0.0	0.0	-6.3	人/月	評点	0		
	目標値の達成率		200.0%	-830.0%	0.0%	0.0%	0.0%	-126.0%							
指標②	KPI	(仮称)つくば市ポータルアプリのインストール数(つくば市の人口に対する割合)										指標担当部課等		政策イノベーション部科学技術戦略課	
	設定根拠	(仮称)つくば市ポータルアプリは、自身に関わる各種情報を受け取ることに加え、各先端的サービスを利用する上で、それらの入口となるものであり、住民のタッチポイントとして重要なものであるため、本指標を測定することにより、住民の中でのスマートシティ推進事業の拡大状況を把握することができる。また、本指標は事業の進捗や展開状況によって逐次変移していくものであるため、複数年にわたって測定する必要がある。													
	目標値【年度増加分】	従前値	基準年度	R4	R5	R6	R7	R8	合計		目標年度				
		0 人(%)	令和3年度	20,000 8.0	15,000 6.0	5,000 2.0	5,000 2.0	5,000 2.0	5,000 2.0	50,000人 20.0 %	令和8年度				
		実績値		13,000 5.2	5,603 約2.24	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	18,603人 約7.74 %	評点	0			
	目標値の達成率		65.0%	37.4%	0.0%	0.0%	0.0%	37.2%							
指標③	KPI	スマートフォン教室へスマホアドバイザーとして大学生が派遣された人数										指標担当部課等		政策イノベーション部科学技術戦略課	
	設定根拠	本事業により、教室自体の開催実績を測定することに加え、大学生と高齢者の世代間交流によるコミュニティの活性化について測定できるものである。なお、スマートフォン教室は、回数・年数を経るごとに内容や方式を更新していくものであるため、複数年にわたって測定する必要がある。													
	目標値【年度増加分】	従前値	基準年度	R4	R5	R6	R7	R8	合計		目標年度				
		17 人	令和3年度	16	16	16	16	16	16	80	人	令和8年度			
		実績値		6	-10	0	0	0	0	-4	人	評点	0		
	目標値の達成率		37.5%	-62.5%	0.0%	0.0%	0.0%	-5.0%							
指標④	KPI	分身ロボットを活用した障害者雇用の実施者数										指標担当部課等		政策イノベーション部科学技術戦略課	
	設定根拠	分身ロボットを活用して障害者雇用を行う事業者の数を測定する。本指標は事業の進捗や展開状況によって逐次変移するため、複数年にわたって測定する必要がある。													
	目標値【年度増加分】	従前値	基準年度	R4	R5	R6	R7	R8	合計		目標年度				
		0 者	令和4年度	1	1	1	1	1	1	5	者	令和8年度			
		実績値		1	1	0	0	0	0	2	者	評点	10		
	目標値の達成率		100.0%	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	40.0%							

評価の分析	評点の平均値	R5年度実施内容(特記事項)	特記事項評価	総合評価
	2.5	<ul style="list-style-type: none"> <li>・移動スーパー 一か所あたりの月ごと平均利用者数は、移動スーパー運営事業者側の都合により集計方法に変更があったため、従前の目標・実績値との比較が困難であるが、移動スーパー等ロケーションシステムを活用した移動スーパーの見える化は安定して実施できている。</li> <li>・つくば市ポータルアプリのインストール数については、アプリの新機能の利活用方法について、庁内調整に時間を要し、運用開始が予定より遅延しているため目標値に達しなかった。</li> <li>・スマホアドバイザーの派遣人数については、目標値より数名少ない。当初は20名程度の予定だったが、日程調整や当日の体調等で都合が合わなかったため、少し人数が減った。</li> <li>・分身ロボットについては、保育所での読み聞かせを新規で実施した。</li> </ul>	イ:据置き	E
	KPI進捗評価			
	E			
	課題	今後の取組(改善目標)		
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ポータルアプリへ追加した市民レポート、市民アンケート機能の具体的な活用方法の確立</li> <li>・ポータルアプリに対する市職員の意識向上と積極的利用</li> <li>・アドバイザー支援のに日程を都合に応じて調整する。</li> <li>・分身ロボットを活用する事業所の確保</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ポータルアプリを市民に積極的に利用してもらうために、分かりやすい広報を行うとともに、多様性に配慮し、翻訳言語を追加することで利用者増に繋げる。</li> <li>・ポータルアプリを市民に浸透させるため、また、円滑な庁内調整に向けて市職員側でも積極的にアプリを活用する必要があることから、アプリの利活用について継続的に周知を図るとともに、関係課等へ具体的な活用を働きかける。</li> <li>・デジタルデバйд解消調査事業の対象人数など規模を拡大する。またスマホ教室だけでなく、気軽に相談できるよろず相談窓口も開設し、気軽に相談できる機会を増やすとともに、支援する場の裾野を広げることで、アドバイザーの活躍の場も広げていく。</li> <li>・分身ロボットを活用する事業所や新規で活用を検討している事業所に出向き、事業所側の人材ニーズ等を丁寧に聞き取ることで、更なる活用に繋げる。</li> </ul>		



【参考】各KPIの累計値

指標①	KPI		移動スーパーが所あたりの月ごと平均利用者数										
	従前値	26	人/月	基準年度	令和3年度		目標年度	令和8年度		指標担当部課等		政策イノベーション部科学技術戦略課	
	年度	R4		R5		R6		R7		R8		合計	
	目標値【累計】	27.2		28.2	29.2	30.2	31.2	31.2	人/月				
	実績値【累計】	28.2		19.9	-	-	-	19.9	人/月				
指標②	KPI		(仮称)つくば市ポータルアプリのインストール数(つくば市の人口に対する割合)										
	従前値	0	人(%)	基準年度	令和3年度		目標年度	令和8年度		指標担当部課等		政策イノベーション部科学技術戦略課	
	年度	R4		R5		R6		R7		R8		合計	
	目標値【累計】	20,000	8.0	35,000	14.0	40,000	16.0	45,000	18.0	50,000	20.0	50,000	人
	実績値【累計】	13,000	5.2	18,603	7.4	-	-	-	-	18,603		18,603	人
指標③	KPI		スマートフォン教室へスマホアドバイザーとして大学生が派遣された人数										
	従前値	17	人	基準年度	令和3年度		目標年度	令和8年度		指標担当部課等		政策イノベーション部科学技術戦略課	
	年度	R4		R5		R6		R7		R8		合計	
	目標値【累計】	33		49	65	81	97	97	人				
	実績値【累計】	23		13	-	-	-	13	人				
指標④	KPI		分身ロボットを活用した障害者雇用の実施者数										
	従前値	0	者	基準年度	令和4年度		目標年度	令和8年度		指標担当部課等		政策イノベーション部科学技術戦略課	
	年度	R4		R5		R6		R7		R8		合計	
	目標値【累計】	1		2	3	4	5	5	件/年				
	実績値【累計】	1		2	-	-	-	2	件/年				

令和5年度に実施した交付金事業における実績評価シート(⑤)

事業名	「科学技術のまち、つくば」の情報発信力強化及び探求・STEAMの学び推進プロジェクト				交付金タイプ	地方創生推進タイプ				
					連携自治体	つくば市単独				
事業の概要・目的	<p>① 地域内連携による「科学技術の街つくば」を感じる機会創出 市内大学・研究機関とのネットワークを活用し、情報発信力の強化、科学技術を体験する機会の創出を図る。 具体的には、地域で活躍する研究者の発信や研究者と直接コミュニケーションをとることができる体験型イベントを開催するとともに、地域で開催される科学技術関連イベント情報を各種SNSに登録された属性情報を利用してターゲティング広告として配信することで、当該情報に興味・関心を持つ層に対する情報配信を強化する。</p> <p>② デジタルを活用した市内小中学校でのSTEAM教育の展開 異分野への興味関心、俯瞰的な視野で物事をとらる力、試行錯誤をしながら課題に立ち向かっていく能力と意欲を養うことを目的に、子どもたちの好奇心を探究活動の入口としたSTEAM教育を、地域が有する研究者と科学技術資源を学習素材として市内小中学校へ展開する。また、児童・生徒の理解を助ける役割を担うサイエンスコミュニケーター人材を地域で確保するための取組を実施する。</p>									
交付金を充当する事業経費(実績額)	<p>(1)官民連携による「科学技術の街つくば」を感じる機会創出 1,965,565円 (2)デジタルを活用した市内小中学校でのSTEAM教育の展開 6,425,621円</p>									
R5年度歳入予算額	4,621,000円	R5年度実績額	8,391,186円	(実績額のうち、国費充当額)	4,195,593円					
事業始期	令和5年4月		事業終期	令和9年3月						
指標①	KPI	問題や課題を自分の力で解決しようとする児童・生徒の割合				指標担当部課等	政策イノベーション部科学技術戦略課			
	設定根拠	STEAM教育を通じて子どもたちに育成してもらいたい能力である問題発見力・課題解決力の習得度合いを、市が全小中学校・義務教育学校の児童・生徒に対して毎年度実施する「教えから学びへアンケート」で測定する。本事業が子どもの問題発見力・課題解決力の向上にどの程度効果があったのかを定量的に把握するものであり、本事業の効果を計測する総合的なアウトカム指標である。								
	目標値【年度増加分】	従前値	基準年度	R4	R5	R6	R7	R8	合計	目標年度
		43.10 %	令和4年度	-	0.50	0.65	0.75	-	1.90 %	令和7年度
		実績値		-	1.95	0.00	0.00	-	1.95 %	評点
	目標値の達成率		-	390.0%	0.0%	0.0%	-	102.6%		

指標②	KPI	科学技術関連イベント情報ホームページの平均月間閲覧数						指標担当部課等	政策イノベーション部科学技術戦略課	
	設定根拠	発信する情報の詳細はホームページ(つくばSTEAMコンパス)へ誘導して参照する形式となるため、本事業によりホームページ閲覧数を計測することは、情報への到達率の向上を定量的に示す指標となる。								
	目標値 【年度増加分】	従前値	基準年度	R4	R5	R6	R7	R8	合計	目標年度
		6,000 回	令和4年度	-	100	150	200	-	450 回	令和7年度
	実績値			-	-187	0	0	-	-187 回	評点
目標値の達成率			-	-187.0%	0.0%	0.0%	-	-41.6%		
指標③	KPI	STEAM教育授業の受講人数						指標担当部課等	政策イノベーション部科学技術戦略課	
	設定根拠	受講人数は、本事業による成果を直接的に示す指標である。								
	目標値 【年度増加分】	従前値	基準年度	R4	R5	R6	R7	R8	合計	目標年度
		330 人	令和4年度	-	560	670	840	-	2,070 人	令和7年度
	実績値			-	437	0	0	-	437 人	評点
目標値の達成率			-	78.0%	0.0%	0.0%	-	21.1%		

評価の分析	評点の平均値	R5年度実施内容(特記事項)	特記事項評価	総合評価
	5.0	KPI進捗評価	<p>① 地域内連携による「科学技術の街つくば」を感じる機会創出 筑波大学ヒューマンエンパワーメント推進局(BHE)と連携し、地域で活躍する研究者の人となり、研究者を志したきっかけ、学生時代の話等をマンガ+記事で構成したコンテンツを5本作成し、次代を担う若年層を主なターゲットとして発信を行うとともに、コンテンツを見て研究職に興味関心を持った人が、研究者と直接対話可能なイベントを開催し、30名を超える参加者を得た。 また、Instagramを活用したSNS広告を2回実施し、それぞれの指標をインプレッション(表示回数)重視、クリック率重視に設定した上で、どちらの方法がより期待するターゲットに情報が到達するかを検証した。 コンテンツ作成及びイベント開催については計画通りに実施することができたが、SNS広告については事業者との仕様調整に時間を要し、年度後半の2回実施に留まってしまったことから、ホームページのアクセス数の増加に繋げることができなかった。</p> <p>② デジタルを活用した市内小中学校でのSTEAM教育の展開 市内の小学校3校、義務教育学校(前期課程)1校、中学校1校の計5校に対して、市独自の教科「つくばスタイル科」のカリキュラムの一環として、STEAM教育を実施した。授業の実施にあたっては、地域の大学・研究機関等から17名の研究者の協力を得ることができた。また、地域でSTEAM教育を継続的に展開させていくために必要となる専門人材(研究者、サイエンスコミュニケーター等)の人材確保プログラムの策定を行った。 実施校は計画通り5校で実施することができたが、希望した学校の規模が想定より小さかったため、受講人数は目標値を下回った。一方で、研究者が参加する授業回数は従来の1校あたり平均2回から3回に増加し、延べ人数は1,300名を超えた。また、全5校にてGIGAスクール端末のTeamsを活用した研究者とのコミュニケーションを実現することができた。</p>	イ:据置き
C				
	課題	今後の取組(改善目標)		
	<p>① 地域内連携による「科学技術の街つくば」を感じる機会創出 地域で開催される科学技術関連イベントの情報を効率的に集め、発信していくための業務フローが確立できていない。</p> <p>② デジタルを活用した市内小中学校でのSTEAM教育の展開 STEAM授業を実施するための授業内容、評価基準、Teamsの活用法といった授業フォーマットはある程度確立することができているが、それを使ってSTEAM授業の実施校数を拡大させ、持続的に展開しているために必要な協力研究者の数が不足しており、新規開拓が必要である。</p>	<p>① 地域内連携による「科学技術の街つくば」を感じる機会創出 当初計画通り、研究者紹介のコンテンツ化、イベント開催に引き続き取り組むとともに、地域の大学・研究機関等から効率的にイベント情報を収集・発信していくための業務フローを構築のうえ、SNS広告を活用を通じて、興味・関心を持つ層への情報到達(アクセス数の向上)に努める。</p> <p>② デジタルを活用した市内小中学校でのSTEAM教育の展開 当初計画通り、STEAM授業実施校の拡大を図っていく。 また、協力研究者の確保に向けて、市内の大学・研究機関を対象とした事業説明会を開催し、事業の周知を図り、興味・関心を持ってくれた研究者のリクルート活動を行う。</p>		

【参考】各KPIの累計値

指標 ①	KPI	問題や課題を自分の力で解決しようとする児童・生徒の割合							
	従前値	43.1	%	基準年度	令和4年度	目標年度	令和7年度	指標担当部課等	政策イノベーション部科学技術戦略課
	年度	R3		R4	R5	R6	R7	合計	
	目標値【累計】	-		-	43.6	44.3	45.0	45.0	%
実績値【累計】	-		-	45.1	-	-	45.1	%	
指標 ②	KPI	分身ロボットを活用した障害者雇用の実施者数							
	従前値	17	者	基準年度	令和3年度	目標年度	令和8年度	指標担当部課等	政策イノベーション部科学技術戦略課
	年度	R3		R4	R5	R6	R7	合計	
	目標値【累計】	-		-	6,100	6,250	6,450	6,450	者
実績値【累計】	-		-	5,813	-	-	5,813	者	
指標 ③	KPI	筑波山地域ジオパーク中核拠点施設における認定ジオガイドの活動実績(ガイド実施延べ人)							
	従前値	0	人	基準年度	令和3年度	目標年度	令和8年度	指標担当部課等	政策イノベーション部科学技術戦略課
	年度	R3		R4	R5	R6	R7	合計	
	目標値【累計】	-		-	890	1,560	2,400	2400	人
実績値【累計】	-		-	767	-	-	767	人	

令和5年度に実施した交付金事業における実績評価シート(⑥)

事業名	つくば市ポータルアプリ整備・改修事業					交付金タイプ	デジタル実装タイプ					
						連携自治体	つくば市単独					
事業の概要・目的	令和4年4月にリリースしたポータルアプリを改修・機能追加(AIチャットボット、認証型グループ配信機能、職員ツール緊急時対応機能(災害対応等)、ユーザーID指定配信機能、対応言語追加、コミュニティバスロケーション機能)し、住民の情報格差の是正、ひいては生活利便性の向上や市政への住民参加の促進、市役所業務の効率化を図る。											
交付金を充当する事業経費(実績額)	(1)AIチャットボット機能追加 4,172,000円 (2)認証型配信グループ作成/QR登録/指定配信機能 7,178,000円 (3)職員ツール緊急時対応機能(災害対応等) 1,320,000円 (4)ユーザーID指定配信機能 2,119,999円 (5)対応言語追加 ※ベトナム語、インドネシア語の2言語 1,050,000円 (6)つくバスロケーション機能整備 750,000円											
R5年度歳入予算額	8,345,000円		R5年度実績額		16,690,000円		(実績額のうち、国費充当額)		8,345,000円			
事業始期	令和5年4月				事業終期		令和6年3月					
指標①	KPI	つくば市ポータルアプリの延べダウンロード数					指標担当部課等		政策イノベーション部科学技術戦略課			
	設定根拠	つくば市ポータルアプリは、自身に関わる各種情報を受け取ることに加え、他事業で実施する先端的なサービスを利用する際の入口になるものであり、住民のタッチポイントとして重要なものである。なお、現在のプッシュ通知機能にAIチャットボットを追加することで、行政DXの促進につながり、KPI達成に寄与することが期待ができる。										
	目標値	従前値	基準年度	R3	R4	R5	R6	R7	合計		目標年度	
		0 人	令和4年度	-	-	37,500	41,100	45,000	45,000	人	令和7年度	
	実績値				-	-	18,603	0	0	18,603	人	評点
目標値の達成率				-	-	49.6%	0.0%	0.0%	41.3%			
指標②	KPI	市民レポートの件数					指標担当部課等		政策イノベーション部科学技術戦略課			
	設定根拠	本指標によって、本来市職員が見回って点検を行っていたものが、住民の目でも行われるようになり、業務の省力化について測定することができ。なお、つくスマのダウンロード数が増加することで、市民レポート件数も増加すると考える。										
	目標値	従前値	基準年度	R3	R4	R5	R6	R7	合計		目標年度	
		0 件/年	令和4年度	-	-	560	820	900	900	件/年	令和7年度	
	実績値				-	-	0	0	0	0	件/年	評点
目標値の達成率				-	-	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%			

指標③	KPI	つくば市ポータルアプリの利用者満足度						指標担当部課等	政策イノベーション部科学技術戦略課	
	設定根拠	本指標により、多様なニーズを持つ住民へ十分な情報提供ができているか、アプリを利用することで住民の利便性が向上しているかなどの効果を測定することができる。なお、AIチャットボット機能の追加や対応言語拡充により、満足度向上に結び付くことが期待される。								
	目標値	従前値	基準年度	R3	R4	R5	R6	R7	合計	目標年度
		0 ポイント	令和4年度	-	-	78	82	85	85 ポイント	令和7年度
	実績値			-	-	0	0	0	0 ポイント	評点
目標値の達成率			-	-	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%		
指標④	KPI	ユーザーの意見を次年度事業計画に反映させた件数						指標担当部課等	政策イノベーション部科学技術戦略課	
	設定根拠	本指標を測定することで、アプリの整備を起点とした多様なニーズへの対応状況を把握でき、住民生活の改善状況も把握することができる。								
	目標値	従前値	基準年度	R3	R4	R5	R6	R7	合計	目標年度
		0 件/年	令和4年度	-	-	6	6	6	6 件/年	令和7年度
	実績値			-	-	0	0	0	0 件/年	評点
目標値の達成率			-	-	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%		

評価の分析	評点の平均値	令和5年度実施内容(特記事項)		特記事項評価	総合評価
	0.0	<ul style="list-style-type: none"> <li>つくば市ポータルアプリのインストール数については、アプリの新機能の利活用方法について、庁内調整に時間を要し、運用開始が予定より遅延しているため目標値に達しなかった。</li> <li>利用者満足度については、アンケート機能の活用調整が遅れたため、測定できなかった。令和6年度中は満足度の測定手法の検討を含めて実施する予定。</li> <li>アンケートシステム、市民レポートについては、アプリに機能は実装したが、庁内調整に時間を要し、具体的レポートを得られていない(テスト環境では動作を確認済み)。なお、令和6年度中には具体的な投稿テーマを決めて運用開始予定。</li> </ul>		イ:据置き	E
	KPI進捗評価				
	E				
課題		今後の取組(改善目標)			
<ul style="list-style-type: none"> <li>ポータルアプリへ追加した市民レポート、市民アンケート機能の具体的な活用方法の確立</li> <li>ポータルアプリに対する市職員の意識向上と積極的利用</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>ポータルアプリを市民に積極的に利用してもらうために、分かりやすい広報を行うとともに、図書館カードのように見せるだけで使えるようなわかりやすく、身近な機能を追加することで利用者増に繋げる。</li> <li>ポータルアプリを市民に浸透させるため、また、円滑な庁内調整に向けて市職員側でも積極的にアプリを活用する必要があることから、アプリの利活用について継続的に周知を図るとともに、関係課等へ具体的な活用を働きかける。</li> </ul>			



令和5年度に実施した交付金事業における実績評価シート(⑦)

事業名	AIオンデマンド送迎配車サービス導入による地域公共交通の高度化				交付金タイプ	デジタル実装タイプ				
					連携自治体	つくば市単独				
事業の概要・目的	医療機関等を目的地とするサービスを新たに導入し、当該ルートにおける予約をスマートフォンアプリから行えるようにする。加えて、AIの活用によるルートマッチングを行うことで経路最適化を図り、「つくタク」事業を高度化し、利用者のさらなる利便性向上・運行の効率化につなげる。									
交付金を充当する事業経費(実績額)	(1)アプリ・システム開発 30,000,000円 (2)サーバー管理費 2,000,000円 (3)コールセンター運用費 1,500,000円 (4)車両運行費 300,000円 (5)一般管理費 2,200,000円									
R5年度歳入予算額	62,425,000円	R5年度実績額	36,000,000円	(実績額のうち、国費充当額)		18,000,000円				
事業始期	令和5年4月		事業終期	令和6年3月						
指標①	KPI	AIオンデマンド送迎配車サービスの利用者数				指標担当部課等	政策イノベーション部科学技術戦略課			
	設定根拠	住民の自家用車による移動に替え、本サービスの利用による移動者増やすことが本事業の目的であるため、事業成果の計測に適している。 R3年度つくタク利用者数実績:48,380人								
	目標値	従前値	基準年度	R3	R4	R5	R6	R7	合計	目標年度
		0 人	令和3年度	-	-	125	250	375	375 人	令和6年度
	実績値			-	-	384	0	0	384 人	評点
目標値の達成率			-	-	307.2%	0.0%	0.0%	102.4%		
指標②	KPI	AIオンデマンド送迎配車サービスの利用者満足度				指標担当部課等	政策イノベーション部科学技術戦略課			
	設定根拠	本指標により、日常的な移動手段の乗り換え(自家用車から公共交通)に対する住民の意向を把握することができるため。								
	目標値	従前値	基準年度	R3	R4	R5	R6	R7	合計	目標年度
		0 %	令和3年度	-	-	88	89	90	90 %	令和7年度
	実績値			-	-	81	0	0	81 %	評点
目標値の達成率			-	-	92.0%	0.0%	0.0%	90.0%		

評価の分析	評点の平均値	令和5年度実施内容(特記事項)		特記事項評価	総合評価
	7.5	<ul style="list-style-type: none"> <li>・利用者数については、区会回覧で4回チラシを全戸配布することにより周知を図りつつ、アプリ使用説明会を14回開催したことにより、利用者数が大幅に上回った。</li> <li>・利用者満足度については、やや不満・不満と回答をされた方は全員70代以上であり、アプリのみでの提供したことが要因であったと思われる。</li> </ul>		イ:据置き	B
	KPI進捗評価				
	B				
課題		今後の取組(改善目標)			
<ul style="list-style-type: none"> <li>・利用のためのアプリ操作について、複数回説明会に参加して覚える方が多かったことから、利用者拡大のためには丁寧な説明会の開催が必要である。</li> <li>・実証に使用した車両が1台のみで、予約が取りにくかった。</li> <li>・スマートフォンでの予約が難しい方がいた。</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>・利用方法に関する説明会を丁寧に実施する。</li> <li>・車両を増やし、予約を取りやすくする。</li> <li>・スマートフォンの利用が困難な方のため、アプリに加えて、電話での予約受付を検討する。</li> </ul>			

令和5年度に実施した交付金事業における実績評価シート(⑧)

事業名	インターネット投票システム構築事業					交付金タイプ	デジタル実装タイプ				
						連携自治体	つくば市単独				
事業の概要・目的	本市では、「スーパーシティ型国家戦略特別区域」における取組として「インターネット投票」の実現を掲げている。令和5度中にインターネットによる投票を可能にするためのシステムを構築するとともに、模擬投票を行い、運用及びシステム上の不備を洗い出し、改修を施すことで、令和6年度に行われる市長・市議会議員選挙での本格導入に備える。										
交付金を充当する事業経費(実績額)	(1)システムの追加開発と改修費 15,440,000円 (2)システム保守 1,930,000円 (3)運営支援 4,300,000円										
R5年度歳入予算額	22,968,000円	R5年度実績額	21,670,000円	(実績額のうち、国費充当額)			21,670,000円				
事業始期	令和5年4月			事業終期	令和6年3月						
指標①	KPI	つくば市ポータルアプリの延べダウンロード数					指標担当部課等	政策イノベーション部科学技術戦略課			
	設定根拠	つくば市ポータルアプリは、自身に関わる各種情報を受け取ることに加え、他事業で実施する先端的なサービスを利用する際の入口になるものであり、住民のタッチポイントとして重要なものである。									
	目標値	従前値	基準年度	R3	R4	R5	R6	R7	合計	目標年度	
		0 人	令和4年度	-	-	35,000	40,000	45,000	45,000 人	令和7年度	
	実績値			-	-	18,603	0	0	18,603 人	評点	3
目標値の達成率			-	-	53.2%	0.0%	0.0%	41.3%			
指標②	KPI	模擬投票の投票率					指標担当部課等	政策イノベーション部科学技術戦略課			
	設定根拠	本サービスの利便性や認知度等について測定できる指標であり、本事業の実施効果を直接的に表すものであるため。									
	目標値	従前値	基準年度	R3	R4	R5	R6	R7	合計	目標年度	
		0 %	令和4年度	-	-	15	20	25	25 %	令和7年度	
	実績値			-	-	0	0	0	0 %	評点	0
目標値の達成率			-	-	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%			

評価の分析	評点の平均値	令和5年度実施内容(特記事項)		特記事項評価	総合評価
	1.5	<p>・つくば市ポータルアプリのインストール数については、アプリの新機能の利活用方法について、庁内調整に時間を要し、運用開始が予定より遅延しているため目標値に達しなかった。</p> <p>・模擬投票については、投票環境向上のための取組としてオンデマンド型移動期日前投票所実証を優先したため、インターネット投票による模擬住民投票が実施できなかった。なお、本事業で整備したインターネット投票環境を活用し、主に視覚障がい者を対象とした投票UI/UX検証を目的とした投票体験会を実施した。</p>		イ:据置き	E
	KPI進捗評価				
	E				
	課題	今後の取組(改善目標)			
	<ul style="list-style-type: none"> <li>ポータルアプリへ追加した市民レポート、市民アンケート機能の具体的な活用方法の確立</li> <li>ポータルアプリに対する市職員の意識向上と積極的利用</li> <li>インターネット投票環境を活用した模擬投票については、具体的な選挙テーマの設定、対象規模等の検討が必要</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ポータルアプリを市民に積極的に利用してもらうために、分かりやすい広報を行うとともに、多様性に配慮し、翻訳言語を追加することで利用者増に繋げる。</li> <li>ポータルアプリを市民に浸透させるため、また、円滑な庁内調整に向けて市職員側でも積極的にアプリを活用する必要があることから、アプリの利活用について継続的に周知を図るとともに、関係課等へ具体的な活用を働きかける。</li> <li>令和6年度内に数回の模擬投票を実施する。</li> </ul>			

令和4年度に実施した交付金事業における実績評価シート(⑨)

事業名	旧筑波東中学校への自転車拠点及びジオパーク中核拠点整備				交付金タイプ	地方創生拠点整備タイプ
					連携自治体	つくば市単独
事業の概要・目的	<p>旧筑波東中学校のリノベーション工事を実施し、自転車拠点施設及びジオパーク中核拠点施設を整備する。つくば市が公的施設として運営することで、市街地の機能が失われつつあるという課題を初め各種の課題を解決するとともに、旧筑波町エリアを中心とした地域振興を図り、ひいては近隣自治体を含めた広域での地域振興を目指す。</p> <p>①自転車拠点施設 つくば霞ヶ浦りんりんロード沿いに自転車拠点を整備することで、サイクリストの利便性向上と共に、サイクリストが筑波町エリアを通過点とせず足止め、消費活動を行うきっかけを作る。また、レンタサイクル事業を活用し、サイクリング用自転車を所有していないファミリー層等を筑波山周辺の飲食店や観光スポット等へ誘導する。</p> <p>②ジオパーク中核拠点施設 展示物やツアー等のプログラムを通して地域資源の価値を広め、地域の魅力向上を図るとともに、地域の方々や子供たちがその価値や魅力を知ること、地域に誇りを持ち、住み続け、活動したいという気持ち(シビックプライド)の醸成に繋げる。また、筑波山地域ジオパークエリア内の物産品の販売及びPRの実施を予定しており、定期的な物産販売イベントや物産品を絡めたツアーを開催することで、産業振興を図る。</p> <p>③駐車場 駐車場にパーク&amp;サイクルライド機能を持たせ、サイクリストによる周辺施設の駐車場占拠を解消するとともに、校舎内に休憩・シャワー機能を持たせ、つくば市がサイクリングの先着点となるよう誘導することで旧筑波町エリアへの新たな人流を作り出す。</p> <p>④BMXレーシングコース グラウンドにBMXレーシング用コースを整備し、練習用や大会開催用に有料で貸し出すことにより、練習時であれば長時間(宿泊を伴う)の練習が多いスポーツのため飲食や宿泊等の地域振興につながり、大会時であれば選手や関係者、観客等により筑波山周辺の宿泊施設への多量の需要が発生すると想定されるため、地域経済への大きな貢献につながる。</p>					
交付金を充当する事業経費(実績額)	交付金の対象となる事業年度は令和4年度であるため、令和5年度における交付金を充当する事業経費は0円。					
R5年度歳入予算額	0円	R5年度実績額	0円	(実績額のうち、国費充当額)	0円	
事業始期	令和4年4月		事業終期		令和5年3月	

指標①	KPI	(仮称)自転車拠点・筑波山地域ジオパーク中核拠点施設利用者数					指標担当部課等		経済部ジオパーク室 都市計画部サイクルコミュニティ推進室	
	設定根拠	本事業の目的は旧筑波東中学校に集客を図り、観光等周辺産業への経済波及効果をもたらす拠点として整備することである。施設の利用者数は、旧筑波東中学校の集客数を示す指標となるものであり、定期的集計される値である。								
	目標値 【年度増加分】	従前値	基準年度	R4	R5	R6	R7	R8	合計	目標年度
		0 人	令和3年度	0	2,350	4,750	2,550	2,350	12,000 人	令和8年度
	実績値			0	9,811	0	0	0	9,811 人	評点
目標値の達成率			0.0%	417.5%	0.0%	0.0%	0.0%	81.8%		
指標②	KPI	筑波山地域ジオパーク中核拠点施設における認定ジオガイドの活動実績 (ガイド実施延べ人)					指標担当部課等		経済部ジオパーク室 都市計画部サイクルコミュニティ推進室	
	設定根拠	本事業の目的の一つとして人材育成があり、認定ジオガイドの活動実績は人材育成の効果を定量的に測る指標となる。また、活動実績にはジオパーク拠点施設で開催するツアーやイベントの開催数を含み、間接的に周辺地域での経済活動の指標とすることが可能である。								
	目標値 【年度増加分】	従前値	基準年度	R4	R5	R6	R7	R8	合計	目標年度
		0 人	令和3年度	0	140	68	104	104	416 人	令和8年度
	実績値			0	80	0	0	0	80 人	評点
目標値の達成率			0.0%	57.1%	0.0%	0.0%	0.0%	19.2%		
指標③	KPI	BMXレーシングコース利用料収入					指標担当部課等		経済部ジオパーク室 都市計画部サイクルコミュニティ推進室	
	設定根拠	経済効果を直接的に測るものであり、客観的な指標としてふさわしい。								
	目標値 【年度増加分】	従前値	基準年度	R4	R5	R6	R7	R8	合計	目標年度
		0 円	令和3年度	0	1,650,000	3,300,000	2,475,000	825,000	8,250,000 円	令和8年度
	実績値			0	2,378,500	0	0	0	2,378,500 円	評点
目標値の達成率			0.0%	144.2%	0.0%	0.0%	0.0%	28.8%		

評価の分析	評点の平均値	R5年度実施内容(特記事項)		総合評価
			特記事項評価	
	8	11月3日(金・祝)に筑波山ゲートパークを開所した。		B
	KPI進捗評価	【ジオパーク中核拠点施設】 令和4年度の課題であった施設全体の整備が完了した。 また、改善目標である展示を活用した教育及び観光プログラムも、不定期開催のワークショップや、周遊ラリーのゴール地点となるなど、目標を達成できた。		
	B	認定ジオガイドの活動実績については、オープン時期が後ろ倒しになったため、達成できなかった。 【自転車拠点施設】 開所式にあわせて自転車利用促進イベント(PEDAL DAY GO Mt.TSUKUBA)を開催した。		
		課題	今後の取組(改善目標)	
		【ジオパーク中核拠点施設】 老朽化した施設のうち、優先度を設定し修繕を行う必要がある。  【自転車拠点施設】 自転車拠点として、BMXレーシングコース利用者以外のサイクリスト等の利用も増やしていく必要がある。	【ジオパーク中核拠点施設】 つくばジオミュージアム、引いては筑波山地域ジオパークの認知度をさらに向上させるため、PR業務に注力する。 ジオガイド活動実績についても、スキルアップ講座等を開催し、積極的な活動を促す。  【自転車拠点施設】 令和6年4月1日から指定管理者による運営を開始したため、指定管理者と連携して周知等を図り、施設利用者の拡大を図る。	

【参考】各KPIの累計値

指標 ①	KPI		(仮称)自転車拠点・筑波山地域ジオパーク中核拠点施設利用者数						
	従前値	0	回	基準年度	令和3年度	目標年度	令和8年度	指標担当部課等	ジオパーク室都市計画部サイクルコミュニティ
	年度	R4		R5	R6	R7	R8	合計	
	目標値【累計】	0		2,350	7,100	9,650	12,000	12,000	回
	実績値【累計】	0		9,811	-	-	-	9,811	回
指標 ②	KPI		筑波山地域ジオパーク中核拠点施設における認定ジオガイドの活動実績(ガイド実施延べ人)						
	従前値	0	人	基準年度	令和3年度	目標年度	令和6年度	指標担当部課等	ジオパーク室都市計画部サイクルコミュニティ
	年度	R3		R4	R5	R6	R7	合計	
	目標値【累計】	0		140	208	312	416	416	人
	実績値【累計】	0		80	-	-	-	80	人
指標 ③	KPI		BMXレーシングコース利用料収入						
	従前値	従前値	単	基準年度	令和4年度	目標年度	令和7年度	指標担当部課等	ジオパーク室都市計画部サイクルコミュニティ
	年度	R3		R4	R5	R6	R7	合計	
	目標値【累計】	0		1,650,000	4,950,000	7,425,000	8,250,000	8,250,000	人
	実績値【累計】	0		2,378,500	-	-	-	2,378,500	人



令和4年度に実施した交付金事業における実績評価シート(10)

事業名	(仮称)つくば市ポータルアプリ整備事業										交付金タイプ		デジタル実装タイプ		
											連携自治体		つくば市単独		
事業の概要・目的	行政情報等の配信やスマートシティサービスのインターフェースとして、令和4年4月にリリースした「(仮称)つくば市ポータルアプリ」に機能(デジタルID・市民レポート機能・機械翻訳機能の向上、インターネット投票・アンケートシステム、移動スーパーロケーションシステム・図書館カード機能)を追加し、更なる住民の生活利便性や、市役所業務の効率化を図る。														
交付金を充当する事業経費(実績額)	交付金の対象となる事業年度は令和4年度であるため、令和5年度における交付金を充当する事業経費は0円。														
R5年度歳入予算額	0円		R5年度実績額				0円		(実績額のうち、国費充当額)				0円		
事業始期	令和4年4月						事業終期				令和5年3月				
指標①	KPI	(仮称)つくば市ポータルアプリの延バダウンロード数(つくば市の人口に対する割合)										指標担当部課等		政策イノベーション部科学技術戦略課	
	設定根拠	(仮称)つくば市ポータルアプリは、自身に関わる各種情報を受け取ることに加え、他事業で実施する先端的なサービスを利用する際の入口になるものであり、住民のタッチポイントとして重要なものである。本指標を測定することにより、本アプリの利用状況を把握できるだけでなく、住民の中でのスマートシティ推進事業の拡大状況を把握することができる。また、本指標は事業の進捗や展開状況によって逐次変移していくものであるため、複数年に渡って測定する必要がある。※2026年度までに20%を目指す。													
	目標値	従前値	基準年度	R3	R4		R5		R6		R7	合計		目標年度	
		0 人(%)	令和3年度	-	20,000	8.0	35,000	14.0	40,000	16.0	-	40000人	16.0 (%)	令和6年度	
	実績値			-	13,000	5.2	18,603	約7.44	0	0.0	-	18603人	約7.74 (%)	評点	3
目標値の達成率			-	65.0%		53.2%		0.0%		-	46.5%				
指標②	KPI	アンケートシステムにより収集した意見を政策に反映させた件数										指標担当部課等		政策イノベーション部科学技術戦略課	
	設定根拠	アンケートシステムの整備により、住民からの意見を収集することが容易になり、それらを政策に反映させることにより、多様な住民ニーズに対応した政策の実施につながる。本指標を測定することで、アプリの整備を起点とした多様なニーズへの対応状況を把握でき、住民生活の改善状況も把握することができる。また、本指標は事業の進捗や展開状況によって逐次変移していくものであるため、複数年に渡って測定する必要がある。													
	目標値	従前値	基準年度	R3	R4		R5		R6		R7	合計		目標年度	
		0 件/年	令和3年度	-	5		5		5		-	5 件/年		令和6年度	
	実績値			-	0		0		0		-	0 件/年		評点	0
目標値の達成率			-	0.0%		0.0%		0.0%		-	0.0%				

指標③	KPI	(仮称)つくば市ポータルアプリの利用者満足度						指標担当部課等	政策イノベーション部科学技術戦略課	
	設定根拠	利用者からの意見という客観的な数値であり、本事業によってもたらされる直接的な数値である。本指標により、多様なニーズを持つ住民へ十分な情報提供ができていないか、アプリを利用することで住民の利便性が向上しているかといった効果を測定することができる。本指標は、本アプリのダウンロード数等によって逐次変移するものであるため、複数年に渡って測定する必要がある。 ※アプリを利用して「満足」と回答した人の割合								
	目標値	従前値	基準年度	R3	R4	R5	R6	R7	合計	目標年度
		0 %	令和3年度	-	70	75	80	-	80 %	令和6年度
	実績値			-	0	0	0	-	0 %	評点
目標値の達成率			-	0.0%	0.0%	0.0%	-	0.0%		
指標④	KPI	市民レポートの件数						指標担当部課等	政策イノベーション部科学技術戦略課	
	設定根拠	市民からのレポート件数という定量的な数値であり、本事業で整備されるシステムのため直接的な数値である。本指標によって、本来市職員が見回って点検を行っていたものが、住民の目でも行われるようになり、業務の省力化について測定することができる。本指標は、本アプリのダウンロード数等によって逐次変移するものであるため、複数年に渡って測定する必要がある。								
	目標値	従前値	基準年度	R3	R4	R5	R6	R7	合計	目標年度
		0 件/年	令和3年度	-	200	525	800	-	800 件/年	令和6年度
	実績値			-	0	0	0	-	0 件/年	評点
目標値の達成率			-	0.0%	0.0%	0.0%	-	0.0%		
評価の分析	評点の平均値	令和5年度実施内容(特記事項)						特記事項評価		総合評価
	0.8	<ul style="list-style-type: none"> <li>つくば市ポータルアプリのインストール数については、アプリの新機能の利活用方法について、庁内調整に時間を要し、運用開始が予定より遅延しているため目標値に達しなかった。</li> <li>利用者満足度については、アンケート機能の活用調整が遅れたため、測定できなかった。令和6年度中は満足度測定手法の検討を含めて実施する予定。</li> <li>アンケートシステム、市民レポートについては、アプリに機能は実装したが、庁内調整に時間を要し、具体的レポートを得られていない(テスト環境では動作を確認済み)。なお、令和6年度中には具体的な投稿テーマを決めて運用開始予定。</li> </ul>						イ:据置き		E
	KPI進捗評価									
	E									
	課題					今後の取組(改善目標)				
<ul style="list-style-type: none"> <li>ポータルアプリへ追加した市民レポート、市民アンケート機能の具体的な活用方法の確立</li> <li>ポータルアプリに対する市職員の意識向上と積極的利用</li> </ul>					<ul style="list-style-type: none"> <li>ポータルアプリを市民に積極的に利用してもらうために、分かりやすい広報を行うとともに、図書館カードのように見せるだけで使えるようなわかりやすく、身近な機能を追加することで利用者増に繋げる。</li> <li>ポータルアプリを市民に浸透させるため、また、円滑な庁内調整に向けて市職員側でも積極的にアプリを活用する必要があることから、アプリの利活用について継続的に周知を図るとともに、関係課等へ具体的な活用を働きかける。</li> </ul>					